

しけりあふ江尻の草やなく水鶏  
高々となにをしをりや竿つ、し  
青東風に日も吹る、や浪のうへ  
提行や籠にもいれぬはつ鱈  
若葉して牆に戻りし木槿かな  
吹て来て嶋にもたれつ草の風

戊午夏

⑳ 新年招

黄鳥や終そこなから霧の中  
かねもなき里やゆるりと花の雲  
また声もひとつくや遠蛙  
窓にかけさすや隣のうめの花  
雨雲にとりつく野火のけふり哉  
雨になる空のぬくみや月とうめ  
野は畑になりけり梅はもとのま、  
くつろきや垣の根水の来てぬるむ  
あらためてむつみこ、ろや松の内  
正月や宵あかつきの身のいとま  
春若き夜かけや雪のある処  
江にかけの静にあける柳かな  
岩はなや夕日を受けて咲つ、し  
島々の空へわかれて初からす  
窓つける工夫して居る柳かな  
朝々や余寒はなる、竹の声  
大空を出ぬけた声や初からす  
明る戸に月は残りて梅の花  
船道に弥生の空のしつみけり  
野の空はひはりに明て暮に梟  
御降もはれて鳥なく木の間哉  
もらひよくなりぬ何所にも梅の花  
野の池やすみれつみつ、一めぐり  
朝川のきよきか上や梅のかけ  
明ほの、木の間透てはるの海  
囀りや野は暮かねてくもる空

蓬固  
宇雀  
青芽  
半夢  
茶雷  
一外

多代  
清民  
壮山  
文起  
一宣  
春齋  
静夫  
佛孫  
素磴  
撫泉  
禾山  
布山  
童岐  
旭  
一翫  
有年  
北崖  
和好  
山方  
御風  
撫泉  
素山  
唼風  
二葉  
大古  
□耳

延た日をしるや雪間の杭のかけ  
着ふるした紙衣さはりも余寒哉  
とちらにも梅は咲けり峠下  
かさりたき這子もありぬ雛の前  
さ、波におされて高し春の月  
次第する雲雀に澄むや空と水  
揚たかけ水にも消て鳴雲雀  
散出して人さはかするさくら哉  
花にまたあかれもせぬや脇まくら  
雨の戸に来て黄鳥の初音かな  
風はやみ曲突はけふりてはつ鴉  
拝領の小袖をはれや弓はしめ  
浦人は花のなかめやいわし雲  
雲とまてまきる、花のゆふへ哉  
くらかりや花に佇む人は誰  
草もえて木の芽青みて旅を家  
黄鳥や雪氣にくもる朝のうち  
かきりなき空や柳の遠けしき  
初空や庭をきよめの雪すこし  
かた山はつはきの多し村さかへ  
土手下も草履みちなり梅の花  
すらくゆれて芽をふく柳哉  
見て居ればまはゆくなりぬ蝶と影  
山吹のさくや茶をひく白の音  
みかくかとおもふ風ふく初日かな  
との里のなこりそまたも雁の声  
茶けふりもかすみとなるや岨の家  
まちかねて起て聞けり初からす  
橙のころかり行や御溝水  
初空にさし出る雪の古枝かな  
批把の葉のひかりを吹や春の風  
消さうな曇りか、りぬ雪の比良  
淡雪や鍛冶の槌音野に走る  
ちる花やふりむく度に日も傾  
枯柴に何のゆかりそ眠るてふ  
蝶はかり空に残りてちるさくら  
白魚や御清ところの撰のこり  
いつ春の行ともしれす神路山

玄子  
璪山  
五鳳  
大夢  
柳壺  
文器  
丹嶺  
慶里  
乙良  
鷺眠  
清水  
契史  
市猿  
習静  
為雀  
茶山  
雅佛  
大栗  
李朗  
古棠  
有信  
山溶  
山莊  
市耕  
山士  
半仙  
露牛  
帆道  
而后  
鶴叟  
士前  
梅裡  
李曠  
量湖  
醉雨  
一清  
星岬  
我竟